

「たからや」解体か活用継続か

倉吉市は、民間業者から旧大型スーパーマーケットの店舗を無償で譲り受け、市民活動の拠点施設として活用している「シックセンターたからや」(同市宮川町)を、使い続けるか否か対応に苦慮している。問題は建物の耐震性とアスベスト(石綿)対策。市は「耐震補強と石綿除去で活用継続か」「解体」の二者択一を迫られるが、いずれも財政負担が重くのしかかる。

(中部本社・小谷和之)

同施設は、1975年用され、現在は福祉や濃度検査を年1回実施するために市内初の大型店とスポーツ、文化、まちし、濃度は「大気1級」分もある。

また、81年以前の建築物のため「震度6で倒壊しない」という新耐震基準を満たしておらず、老朽化も目立つ。市の試算では、施設解体費は約3億4千万円(アスベスト除去費含まれ)。アスベスト除去と耐震補強も相当な費用が見込まれる。

「対処」に億単位の

「たからや」をそのまま活用。閉店に伴って鳥取市の業者が2003年に倉吉市に寄付し、04年9月から市民団体の事務所などに利用されている。県条例に基づいて施設内のアスベスト

「ニュー」の

焦点



「活用継続」か「解体」で市の方針が注目されるシックセンターたからや。倉吉市宮川町

耐震とアスベスト対策で倉吉市苦慮 いずれも財政負担重く

当たり0.3本」と県でも使える状態ではない。できれば売却した当たり1本以下)を下回っているが、現在の「有効な処分」を強調する。

活動継続に配慮

ただ、施設は市民活動の拠点として定着している。指定管理者であるNPO未来の岸田寛昭理事長は「(入居団体から)アスベスト不安を訴える声はな

「たからや」は一体費は約3億4千万円(アスベスト除去費含まれ)。アスベスト除去と耐震補強も相当な費用が見込まれる。

「有効な処分」

市によると、施設をそのまま使い続けても「法的に問題ない」ようにする。市が寄付を受けた当初から分かった、アスベストと耐震性の問題がある。市民の責任としてできない」と述べ、現状のまま使い続ける選択は「浮上する「施設をどうするか」の議論。当時の市の「見通しの甘さ」が指摘され、関係者からも「ただ、より高

見通しの甘さ

耐震補強と石綿除去の市「見通しの甘さ」が指摘され、関係者からも「ただ、より高クリアすべき課題がそ

市は現在、内部検討会で施設の在り方を協議。今後は外部有識者